



414
A 818
4



浪速才九号

於馬尼刺

浪速艦長三須宗太郎

明治三十一年八月四日
海軍大臣侯爵西郷從道殿

自三十一年七月廿五日至全八月四日報告

一七月二十七日西國總督ヨリ去ル廿日及廿日全國攝政皇
太后陛下ノ祝日ニ際シ祝砲ロシ件ニ付答禮ノ挨拶
アリシ趣三増領事ヨリ通知ヲ受ク
廿八日別紙マシラ市川口閉鎖ニ付点燈位置ノ図面總
督ヨリ送附セシ趣ヲ以テ獨旗艦カイサヨリ回送ヲ
受ク

八月二日午前八時在マシラ英國領事死セシ趣ニ付
今日正午ヨリ軍艦旗半下ノ通知ニ接ス依テ英艦優
ハニ

264

4-4



七日没マラ半揚揚ス
一水軍ノ動靜

廿六日午台六時ヨツクローキヨラポンヨリカビテニ帰航セリ
廿六日午前七時ヲシカビテヨリバラナキニ至リホストン
ノ附近ニ投錨全九時二十分ホストンニ投錨カビテニ帰航セ
リ(浪傑オハ早ノ米艦上
動靜ヲ一項奉照)

英副領事ノ談話ナリト云フヲ聞クニヨラポン方面ニハ
米陸兵五六百人送リアリト云フ(昨夜護衛艦無ヲ見シ
ハ信シ難シ)(浪傑オハ早ノ米艦上
動靜ヲ一項奉照)

廿八日午前八時五分小基汽船(米艦ナラシ)ゴフシ破泊地
リ三隻ノライター船ヲ曳キカビテニ向ヒ全午台二時十
分米小基汽船ヲライター一隻ヲ曳キカビテヨリラシノ
錨地ニ至ルヲ認ム

三十日午前五時二十分ヨツクローキヨラポンカビテ出港マラポンノ方
面ニ航シテ直ニカビテニ航途中土人船二隻(一隻ハ後進
ニ出會暫時停止ノ後發旌旗アル一隻又曳キカビテニ向
フヲ見ル)

全八時五分ヨツクローキヨラポンカビテ出港マラポンノ方面ニ
航スルヲ見ル
全午台四時十分運送船(四橋ニ烟突)一隻カビテヨリ出港
セリ全四時三十分ヨツクローキヨラポンカビテ出港蓋シ湾口ニ獨乙
音船ノ出現シタルヲ以テ臨檢ノ為ノト思ヒ全艦全船
ハ相接ニ停止スルヲ暫時ニミテ船ハカビテニ向ヒ繼ハ高湾
内ヲ巡視スルモノ如シ之レニ神合ニ黒烟ヲ認メタルカ故ナリ
ト想像ス然ニ右ハ獨乙ノ小汽船ナルヲ確カノタルカ為ナ
カニ特半分カビテニ帰航セリ

因ニ曰ク右小汽船ハ獨旗艦カイナリノ舷側ニ至リ又先
キニカビテニ向ヒクル商船モコニラ 錨地ニ来泊タルヲ認ム
三十日午前七時十五分小蒸汽船ライターニ隻ヲ曳キカビ
テヨリテレノ錨地ノ傍ニ至ルヲ見ル

八月一日午前七時カレンボドッラレノ傍ニ假泊シ至十一時三十
分錨地ヨリ錨地ヲ過キマラボシ方面ニ航スルヲ見ル
三日午前八時米小蒸汽船人員及貨物ヲ搭載シタル
ライターニ隻ヲ曳キカビテヨリテレノ傍ニ航スルヲ見ル
一米國運送船

去ル廿五日八時セシ汽船ハ才三輪送兵ノ一ニシテニエウホ
ーント録スル武裝船ナリ且ツノリウト中將乗船セリト英國
領事ノ直話ナリト云フ(前田船中)
三十日午後二時米國旗ヲ掲ケタル運送船五艘船艦相

接シテカビテニ入港スルヲ認ム之才三輪送兵ノ全部ト見
テ誤ララレ但シ其數未詳トモ四千内外ト思ハル

一叛徒
收徒ハ新政府ヲ組織シ四省ヲ置キ各大臣ノ任命ヲナ
セリト其詳細ハ載セテ七月二十三日香港デリーリトアレシニ在

リ
現今チアキナルドニ帰服シ居ル土地ハ獨リ呂宋島ノ南部凡
ソ三分ノ二ニ過キスニテ其内ニモ一二部落ハ全ク之ニ服従
シ居ラスト云フ
去ル廿二日叛徒ハ小蒸汽三隻又ニ二百五十人余ノ兵員ヲ
搭載シ子グロス島へ送兵ノタノロンブロン島中ロレバ
ロン港ニ向テカビテヲ出港セリト聞ク而シテ子グロス島
ニハ西兵ノ出在スルモノナシト云フヲ以テ見レハ其送兵ハ
三

四ノミテ何ノ為ナカト云フニ諫島氏ハ此ヲテフキナルドニ團
結セサルニテ又夕此ノ送兵ノ内ニハアキナルドノ副官ノ人
ニテ諫島産出ノ者モ亦遣サレト云ハ諫島ノ征ノ
為ナカランカト云フ

叛徒ノ使用シアル旗章ハ先ニ秋津洲艦長ノ報告ニ
在ル如クニテ海陸共ニ使用シアリト云フ而シテ其章
中三星ハロソソパターニシトナチノ三嶋ヲ意味シハ光
線ハ呂宋島ヲハ洲ニ分ケタルヲ以テ之ニ取リ又ク光
線ノ中心ニ顔形ヲナシタルハ宗敵ヨリ出ラタル者ノ由ニ
テ獨リ旗章ノミナラス他ノ章ニモ之ヲ用ヒ居ルト云
フ

一戦況
吾ハ廿三日以來連日ノ強風降雨ノ為ナカミラ方面ノ

銃砲ノ音モ早朝又夕ハ晚景ニ稀ニ聞ク位ニテ異状ナシ又夕
叛徒ノ汽船反土舟ノ往來モ波濤高キ為ナカ殆ント稀
ナリ廿日ハ聊々快晴ニシテ砲銃ノ聲モ烈クト蒸汽ノ往復
モ相應ニ見受ケタリ又三十日強風ナレ夜半散々砲銃
火ヲ見ル
米國オ三輸送兵モ尽皆到着ノト思ハルレ兵未ク何
等ノ運動モ認メス

一火災
廿九日午後七時三十分ヲミラ市ノ南方陸岸ニ火災ヲ認
ム全八時鎮火
三十日午右一時ミラ市街北東ノ方面河口燈台ノ前方ニ
当リ火災起ル此日風力強キ為ノ火勢一時猛烈ナリ
シカ全九時三十分鎮火ヨリ

ラミラ市

糧食品ハ漸次欠乏ノ有様ナレバ今台七週同位ハ支ナ
ルニ足ルト云フ併シ食パンノ如キハゴニ賣店ナキ由ナリ
又過日未牛肉ニ代ハ水牛ノ肉ヲ用ヒ居タルモ今ハ水
牛ヲモ徵発セラレ曾ラ荷車曳ニ使用セシ水牛モ今
日ハ人カニ代エル有様ニテ僅カニ馬肉ヲボル始末ナ
リト云フ

各國軍艦

廿六日午台佛艦バスカル東京ヨリ入港

廿七日午台佛艦バスカル東京ヨリ入港

廿八日午台佛艦バスカル東京ヨリ入港

廿九日午台佛艦バスカル東京ヨリ入港

三十日午台佛艦バスカル東京ヨリ入港

全 午台佛艦バスカル東京ヨリ入港

八月廿九日午台三時独プリンセスウヰルヨリ入港

全 三日前六時獨ヨルニ出港

全 午後二時獨ヨルニ入港

全 午後四時二十分ヨルニ出港カレテヲ終ラセヨ

全 向

獨艦カイナ出港ス

右報告矣也



浪牒第一〇号

明治三十二年八月十三日

海軍大臣侯爵西郷從直様

自八月四日至同十二日報告

八月六日西郷督ドン・バジリアス・アウグスティン、ガビラ中將
其職ヲ免セラレ副總督ドン・フェルミン・ハウデリス師团长代
リテ總督トナリタル旨領事ヨリ通知アリ

因ニ云フ總督ノ傳ノラレタルハ嚮キニ交信ト和約セントスル際
總督ハ僧侶ヲ尽ク島外ニ放逐セントノ条件ニ同意シタル
ニ僧侶ハ勿論若シ長オハ反對者アリテ行ハス且ツ僧
侶ハ之ヲ西国政府ニ報シタル為メアラント又本國ニ援兵
ヲ乞ヒ若シ援兵ヲ送ラザレハ其職責ヲ負ハスト打電シタ

馬尼拉灣

浪達船長三沢宗太郎



浪達船長三沢宗太郎
馬尼拉灣
八月十三日
海軍大臣侯爵西郷從直様
自八月四日至同十二日報告

ルニ基因デリトモ云フ

同七時半後一時末国士官未船其司令長友、余ヤリトテ付テ曰
クマラ埠ヲ砲撃スルニ付今ヨリ四十八時間内ニ危険ナラ
スト思考セラル、位置ニ船地ヲ変更アリトシト依テ直ニ本邦
居留民及ヒ豫テ規約アル西国婦女子ヲ避難セシムル件ニ
付本邦領事ニ左ノ如ク照会セリ

一 本國艦隊司令長友ヲ、本日午後一時ヨリ四十八時間内
ニマニラ城砲撃ニ差支テキ場所ニ船地変更ノ請求ニ接
セリ

一 右付帝后人民ニシテ本艦ニ避難ヲ要スルモノハ明八日午
前十一時陸発ノ本艦端艇ヲ乗船スル

一 エスカールニ避難スル西国婦女子ハ明八日午後五時手
マテニ乗船セシムル

一 エスカールハ明後九日午前七時本艦ニテ曳キ共ニ出港錨
地ヲ変更スルニ付同時「エスカール」船長ニ左件ヲ申告セリ

一 其艦監督ノ為メ士友一名下士一名卒四名明八日午前
八時ヨリ其艦ニ乗込マヌルニ付船内ノ瓦罫ニ突シテハ
傷ヲ候士友ノ此旨ヲ受クヘシ

一 其艦ハ明後九日午前七時本艦ニテ曳キ沖出スルニ付
同時マテニ準備シ置クヘシ

一 其艦ニ避難スルモノハ西国婦女子ニシテ且ツ帝后領事
館ノ乗船証書ヲ有スルモノ、外ハ一切乗船セシメサル
ハ勿論ナシ此旨ヲ領事館ニ於テ一葉一人ノ積ニシテ
二百名ヲ限リ、其証書ノ内知港子ニ於テ勝
色ニ一葉ニ載ル人名ヲ記シ乗船セシムルヤモ積計ニ
付右ノ場合ニ於テ若シ船ノ安全ニ虞スルリ思存

七、八乗船セムハカラヌ又曰私トノ信号規約ハ左ノ如シ
 B、用心ニ為メ投錨用セテ置テ
 H、左舷ホーサーヲ垂リ放ス用之(此信号ヲ下スト同時ニ垂リ放ス)
 K、投錨用之
 M、適当ト認メタル時機ニ投錨セヨ
 P、揚錨用之
 S、右舷ホーサーヲ垂リ放ス用之(此信号ヲ下スト同時ニ垂リ放ス)
 T、錨ヲ揚ケヨ
 W、本船前進ス多ク故障ナキヤ
 F、速カニホーサーヲ切斷シ投錨セヨ
 N、本船楫戻故障アリ

T、第一和音旗ニ代用ス

一八月八日午前八時エスカリーへ此督自爲メ水登大尉外下士一名卒四名ヲ同船ニ乗船セシム且ツ同大尉ニ命ムル左ノ箇條ヲ以テス
 一其友ハ下士卒ノ指揮ヲ掌リ船内ニ在留ヲ此督自スヘシ
 一エスカリーニ乗船セシムヘキ西国人ハ婦女子ニシテ豫テ帝國領事館ヲ交付セシ証書ヲ有スルモノニ限リテ以テ其以外ノモノハ以テナシ理由アリトモ乗船セシメザル様此督自スヘシ
 一エスカリーニ避難者ノ食子ヲ就テハ豫テ派船長ト西艦ト約束アル筈ニ付此おニノ虞スヘカリラス
 一エスカリーニ避難者ハ婦女子ノナシハ乗退船其他進退ノ危険ナラサルヲ以テ之ニ且ツ艦中ニ保護スベシ

此日本艦ニ乗艦セシ避難者ハ三峯音吉外五名ニテ領
事館長ハ本日午後末旗艦ニ云らんヲ以テ九日
午前中ニ乗艦ノ命令ニ互計シタルトノ通知ニ據ルカハ午
前十時頃及及領事館ニ名乗艦セリ先是西国艦督ハ
七日午後五時ヲ期シ各名領事ヲ會シ謀テ曰ク米司令
長官ヨリ当城攻撃ニ付本日午後一時ヨリ四時
ニ市民ヲ立去ラシムヘントノ通知ニ據リ決戦ト降
服トノレヲ採ルカ本国政府ノ意向ヲ能ムルヲ砲撃
期ノ斡旋ニ與リタル代ニ各名領事ハ命令以テ要
請シテモ其後勞タルヲ知ルヲ以テ降服セトハ口外セザル
モ只彼等ハ情ヲ以テ当市民ノ安全ヲ計ルリニ勸
告セリ然レモ艦督ハ曰ク但令一般人民ハ避難セシム
自分ノ門ハ艦ヲ城内ニ於テ決戦スト坊間所説百中遂

ニ各領事ハ避難時間ノ幾分ノ延期ヲ乞フ為明八日末旗艦
ニ至ルニ決定シ退艦セリ翌日ニ至リ各國領事ハ米艦
ニ至ル目的ニテ川口ヲ出タレモ風波非常ナリシタメ引還
シ其旨ヲ艦督ニ報セリ依リテ艦督ハ始メテ市民ニ避
難ノ必要ヲ公布セリト云フ

九日午後七時鐘地変更ノ豫定ナリシモ避難艦「エスカノー」
ニ乗艦スルモノ未タ全ク終ラヌ又多我ノ他艦艦「エスカノー」ノ
近傍ニ在リ且ツ何艦ヲ曳キ出スニ船向キ不適当ナラサルニ
付十時ニ分々ヲ引シ午後一時カビテニ投錨ス
一「エスカノー」ニ避難セシ西国婦女子ノ姓名年齡負我
ル全ノ処ニ留泊セシム又同艦ニハ乗艦者有スルモノ
、外乗艦セシナサレ答ナリシモ有秀者ノ乗艦スルモノ少
四

一 独佛艦及其保護艦ハ、マラボン沖ニ英艦及其保護艦ハ
カビテニ錨地ヲ変更セリ

午後三時半分末司令長友ヲ訪問ス其陸長友曰
クマニラ城ハ砲撃ヲ要セムシテ後艦セシトテ欲スニカ
為メ多我ノ人軍ヲ善クハ余ノ望ニ所ニホラスト
午後五時末艦ヲコンコルド及「パトリス」マラボン方面独佛
砲泊地附近ニ錨泊ス
十日午後ニ至ルモ末艦砲撃ノタメ出港スル模様ナ
シ一將校ヲ末艦艦ニ遣リ先方ヲ以テ向ニマシ
城砲撃ノ時日ガヲ尋ネシニ休致ヲ之ヲ秘セシテ曰
ク昨九日午前ニ我全艦隊ヲ以テマニラ城ヲ砲撃セ
ハ徳ニ多我ノ人軍ヲ善クテ以テ砲撃ニ先ケ降服

スルノ利益ナルニ加カサルトノ勸告書ヲ西總督ニ送リ廿四
時間ノ猶豫ヲ以テ其返答ヲ求メタリ依テ其返答ニ
ヨリテハ十日乃ケ本日ノ正午ヨリ砲撃ヲ始ムル豫定ナリ
シモ今ニおハノ返答ナシ為メニ高明十一日ノ正午ヲ猶豫
シ返答ナケレハ強ニ砲撃ニ着手スト若シ返答アリテ時
日ノ遷延ヲ乞フモ十二日ノ正午ニハ是ガ共攻撃スト云
ヘリ此ニ同日正午ニ至ルモ依此トシテ砲撃ノ模様ヲ見升
リシカ偶同夕刻末士官末艦セシニ付砲撃ノ模様ヲ
尋ネシニ曰ク本日總督ヨリ降服セストノ通知ニ接シタ
リ依テ明十三日午前九時強ニ砲撃スルニ決セリト
一 末陸兵ハ全我一万余人ナリ高キニ千人程近日軍艦
「モナソク」ヲ護送シテ末艦ヲ答ナリト云フ
一 独軍艦ノ舉動ハ末軍ノ感情ヲ害セシト甚シキト

見へ本より件平定後ハ独ニ對シテ為スアラント云ヒ居ル
由ニ聞ク

一 米陸軍々人ノ港ニ彼オノ本國ヲ出奔スル陸國民ハ云
ヘリ米國ハ東洋ニ蓄炭所若クハ海軍根據地アラサ
ルヲ以テ馬尼刺占領ノ上ハ永久ニ其領地トセント

一 陸軍士官初メ率ニ五ルヲ本船ノカビテニ錨地ヲ
変セシラ悦フ摸探アリト云フ又現ニ本船ノ近傍ヲ
通行スル米人ニシテ故ラニ帽ヲ振り行クヲ見受ケタリ
又又先キニ長官ヲ訪問セシキモ本船ノ来リタルヲ満足
セシカノ如キ摸探ヲ見受ケタリ

一 戦况

前回ニ報告セント大同ハ異ニシテ特ニ記載スヘキモノナ
シ時ニマラポン方面ニ銃砲ノ声ヲ聞クノミ

一 軍艦到着

八月四日午前十時末船「モンテリ」運送船ト共
ニカビテ入港月時ニ十三発ノ砲祝ヲナス(内國司令長官ニ
對シテ)

月五日八時独艦「カイザ」マルベルスヨリ入港
月九日將独艦「カイザ」マルベルスヨリ出港(マルベルスヨリ)

日入港

此外在港各國軍艦出入ナシ

一 去ル七月三十日米國第三輸送船カビテ入港セシ付
直ニ遠征輸送ニ關スル方格及衛生上ノ摸探ヲ探
究セシメント欲シタル内船着以來日ハ強風ニシテ内地
ハ交通不能ク漸ク本七日ニ至リ聊カ海上手穩ニナリシ
ヲ以テ三輪大尉及門倉大軍医ヲ派セシメタル其
要領ヲ以ル能ハス只聞知シタル事件ハ其報告ニ由リ

米國旗艦オリンピア号の訪門探聞報告
本官等明治三十一年八月七日遠路陸兵運輸ニ関シ探
聞ノ余ヲ受ケ米國旗艦オリンピア号ヲ訪問セリ然レ
全艦ニ於テハ其狀況ヲ知ル者ナリ因テ直接運送船
ヲ訪シ詳知セシトセルモ既ニ全員上陸後ニシテ之ヲ尋入
ルニ由テモ以テ全艦本官ニ付聞知シ得タル数件尤ノ
目下下カビテニ在ル陸軍部隊ノ總數ハ約一万余ニシ
テ(騎兵ヲ有セズ但シ幕僚中ニ騎兵將校アリ)砲
兵ハ野戰砲ノミヲ有シ砲種ニ定セバト云フ
一今同第三輸送ノ兵員ハ凡ソ五千名余ニシテ運
送船六艘ヨリ成立シ兵員ハ四艘ノ運送ニ分テ送
ル

米國旗艦オリンピア号の訪門探聞報告
本官等明治三十一年八月七日遠路陸兵運輸ニ関シ探
聞ノ余ヲ受ケ米國旗艦オリンピア号ヲ訪問セリ然レ
全艦ニ於テハ其狀況ヲ知ル者ナリ因テ直接運送船
ヲ訪シ詳知セシトセルモ既ニ全員上陸後ニシテ之ヲ尋入
ルニ由テモ以テ全艦本官ニ付聞知シ得タル数件尤ノ
目下下カビテニ在ル陸軍部隊ノ總數ハ約一万余ニシ
テ(騎兵ヲ有セズ但シ幕僚中ニ騎兵將校アリ)砲
兵ハ野戰砲ノミヲ有シ砲種ニ定セバト云フ
一今同第三輸送ノ兵員ハ凡ソ五千名余ニシテ運
送船六艘ヨリ成立シ兵員ハ四艘ノ運送ニ分テ送
ル

他ノ二隻ハ石炭船ニシテアサンドウ井ワケ島ヲ經テ到着セシ者ナリ而テ是等ノ運送船ニ對シテハ軍醫及護衛ハナカリト云フ

一船内兵員ノ居住ハ三段ノ棚ヲ設ケテラベツドレヲ造リ之レニ卧セシメ亦患者用トシテハ特ニ軍艦内ニアル如キベツドレヲ準備セシメ田ナリ然レテ之ニ附隨セシ軍医ノ負救及治療品ノ量患者數等ニ至ツテハ詳テハ海航海中北名ノ腸胃扶斯患者止改生セシトニ名ノ死セキナリト聞ケル其消毒法其他ノ所置法ニ関シテハ詳ナルヲ得ス

一目下各軍隊ハ悉ク上陸セ終リ其大部分ハゴカビテノ海軍官衙ニ舍營セ一部ハゴカビテ河ノ北方ニ於テ西兵ト對陣ニ居レリト而テ此ノ兵ハ民家又ハゴバラツク等ニ宿營スリナリニ人ニ付一個ノ小天幕ヲ有シテ之レニ

起卧シ常ニ各自背囊ト其ニ携帶スト云フ目下又戰地方ノ運而ノ為メ泥濘多ク我ハ頗ル困難ヲ感シ居ル者ノ由ナリ

一馬賊入共セシモトシ敵軍艦ハゴモトシシ号ニシテ石炭供給船一艘ヲ率ヒ三十余日ニシテアサナラシミスヨリ到着セシ由ナリ

一目下ゴカビテニアル運送船ハ大小十七隻又ニシテ内ニ隻ハ英國ノ旗ヲ揚ケタル帆船及一隻又ノ白耳義國旗ヲ掲ケタル汽船一艘ナリ

一目下米國艦隊ニハ病院船ヲ設ケテマキニヨリ重症患者ハゴカビテノ陸軍病院ニ依頼スル豫定ナルモ目下全艦ニハ重症患者ヲシテ而シテ又全艦ハ四月下旬当地着以來マキニヨリ等ノ豫防藥ヲ投セサリシモ

麻刺利亞等ニ罹リシモノナシ只兩三名ノ賜室扶斯患
者ノ發生ヲ見シモ目下蔓延ノ兆ナシト全艦乗組員
四百五十人中受診患者日々五六名乃至十名ニテ一
月平均二百名内外ナリ藥室ハ廣闊ニテ稍少備
せんカ如ク手術室ハ其傍ニ三個ノ寢室ヲ有シ内痔
瘻ノ手術セシモノト賜室扶斯ノ快復期ニ在ルモノ相
隣ナリ見タリ
一各軍艦ノ糧食ハゴーストラリヤヨリ運送船ニテ供給
スト云フ状ニ其一部ノ生糧品ガビラニ於テ購給シ
居リ時恰モ午食ノ前ナリシヲ以テ兵員ノ卓上ヲ見
ルニ生麵粉トコビーフト燒玉子及漬物等ノ排列シ
在タリ
本官等ハ此ニ於テ午食ノ時ナルヲ知り且ツ又天候不良

ナラシ慮リ全艦ヲ辞シ歸艦セリ
右報告其也

明治三十一年八月七日

海軍大軍醫門倉梅三郎
海軍大尉三輪修三

浪速艦長海軍大佐三須宗太郎殿

